

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 東成区

学 校 名 深江小学校

学校長名 西岡 貴史

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・深江小学校では、第6学年 35名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・国語・算数・理科ともに正答率が全国平均に届かなかった。
- ・どの教科も全国同様、記述式問題の正答率が低く、無回答率が高かった。
- ・算数では図形の角の大きさについての問題の正答率が高かった。
- ・理科では電気の回路についての問題、顕微鏡の操作についての問題が難しかったようだが、温度による水の状態についての問題の正答率が高かった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

- [国語]
 - ・情報の扱い方に関する問題に課題がある。
 - ・文章を読み取る力に課題がある。
- [算数]
 - ・グラフの読み取りは一定できている。
 - ・データの活用についての課題がある。
 - ・校内研究を算数科に絞って授業実践していることが、児童の考える力の育成に結びついてきている。
- [理科]
 - ・自主学习で探求する課題に取り組んでいる児童に力の伸びが出てきている。

質問調査より

- ・「学校に行くのは楽しいか」の項目での肯定的回答率が低い。学校での活動に魅力を感じられる工夫が必要である。
- ・学校外での学習時間が短い児童が多い。「学び方」が身につけていないことが考えられる。
- ・「人の役に立ちたい」「地域や社会をよくするために何かしたい」という項目での肯定的回答率が高いことは、人との関係性を重視してきた取組が生きていることを感じる。
- ・学習者用端末の活用の力をよりつけていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

- ・文章を読み取る力を育成するために、今後も読書活動の充実に取り組む。
- ・意欲をもって学校生活が送れるような取組のあり方を検討する。
- ・受け身の学習ではなく、主体的な学びが進められるようにする。
- ・デジタル機器を活用した効果的な学習を探っていく。
- ・データを活用する力の育成を重視した学習を進めていく。